

丸全昭和運輸(株)グループのDX

MLDX

とは…

Maruzen Logistics Digital Transformation

I. 丸全昭和運輸のDX戦略

- (1) 丸全昭和運輸の長期ビジョン（目指す姿）
- (2) DXによるビジネスモデルの変革
- (3) 情報活用型ビジネスへの展開
- (4) 攻めのDX
- (5) 基盤強化のDX
- (6) 2030年の目指す姿

II. 丸全昭和運輸のDX推進

- (1) 推進体制とガバナンス
- (2) DX推進ロードマップ
- (3) DX人材育成
- (4) エコシステムの導入・強化に向けて
- (5) DX関連投資
- (6) DX推進指標（KPI）
- (7) 丸全昭和運輸のDX推進スローガン

I. 丸全昭和運輸のDX戦略

テクノロジーと現場力で、 お客様の未来を創造する ロジスティクスパートナー

お客様への貢献

- DX（デジタル・トランスフォーメーション）の取り組みを通じて、自社内の省力化を図ると共に、データを蓄積する仕組みを整備し、そのデータを利用した提案で、物流の効率化だけでなく、生産・販売の効率化、高付加価値化をグローバルに提供します
- 物流の共同化・標準化を進める中で、当社独自の現場対応でお客様に貢献します

社会への貢献

- 企業の稼ぐ力のサステナビリティと社会のサステナビリティの両立を目指します
- 株主・取引先・従業員・地域社会などステークホルダーの満足度を高めます

(2) DXによるビジネスモデルの変革



装置活用型

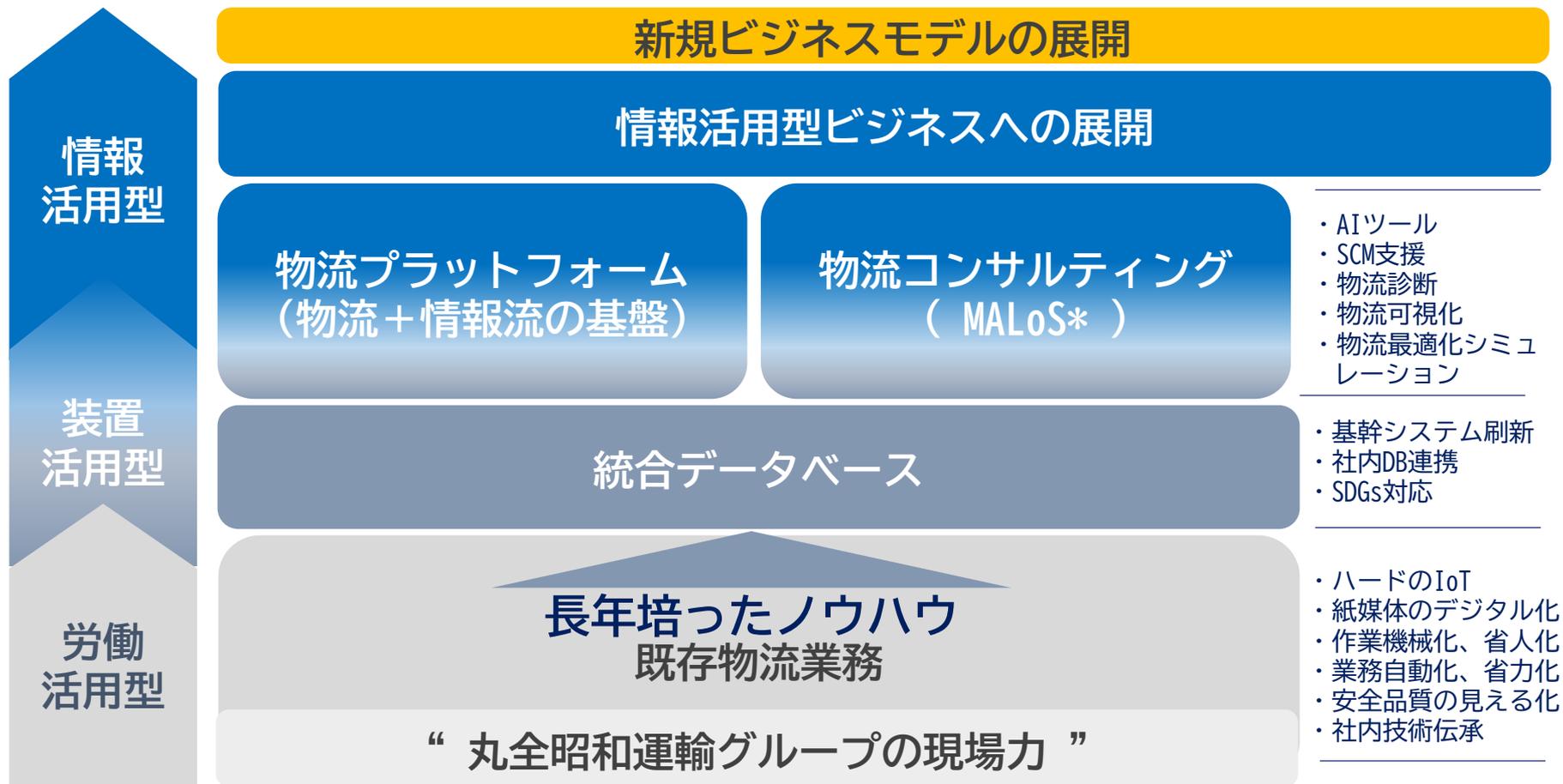
機械化・自動化・システム化により省力化・データ化を実現

情報活用型

データを活用して、取引先企業に付加価値を提供

(3) 情報活用型ビジネスへの展開

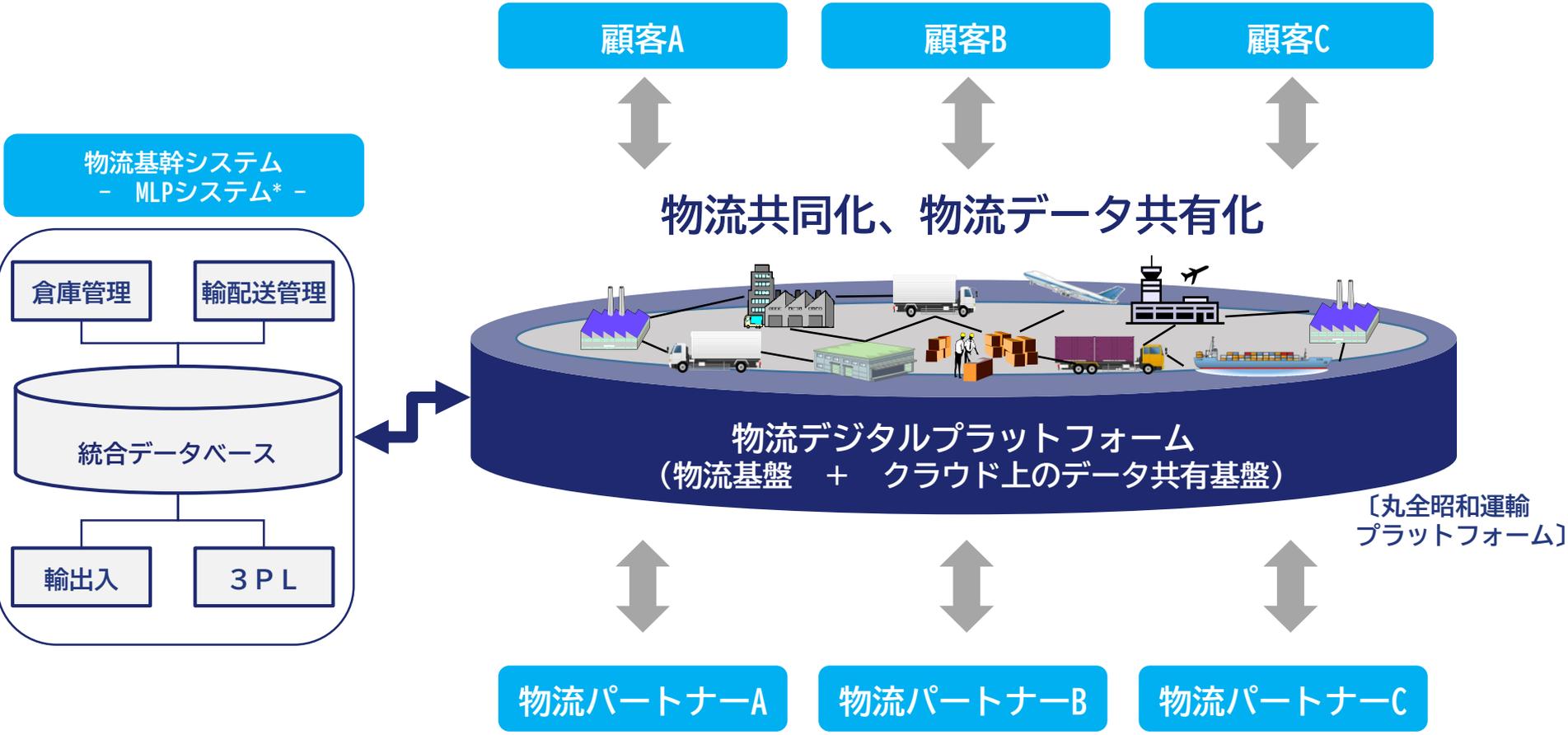
- 現場力をベースに培ってきた従来の物流業務のデジタル化を進め、データ統合・集約化により“統合データベース”を構築。データ活用の“情報活用型ビジネス”に進化しDXを図る。



*MALoS (マロス) : Maruzen Advanced Logistics Solution 「丸全版先進的物流ソリューション」を意味し、3PLを
発展させた当社独自のLLPサービスの名称として設定する。

(4)-1 攻めのDX … ①物流デジタルプラットフォームの構築

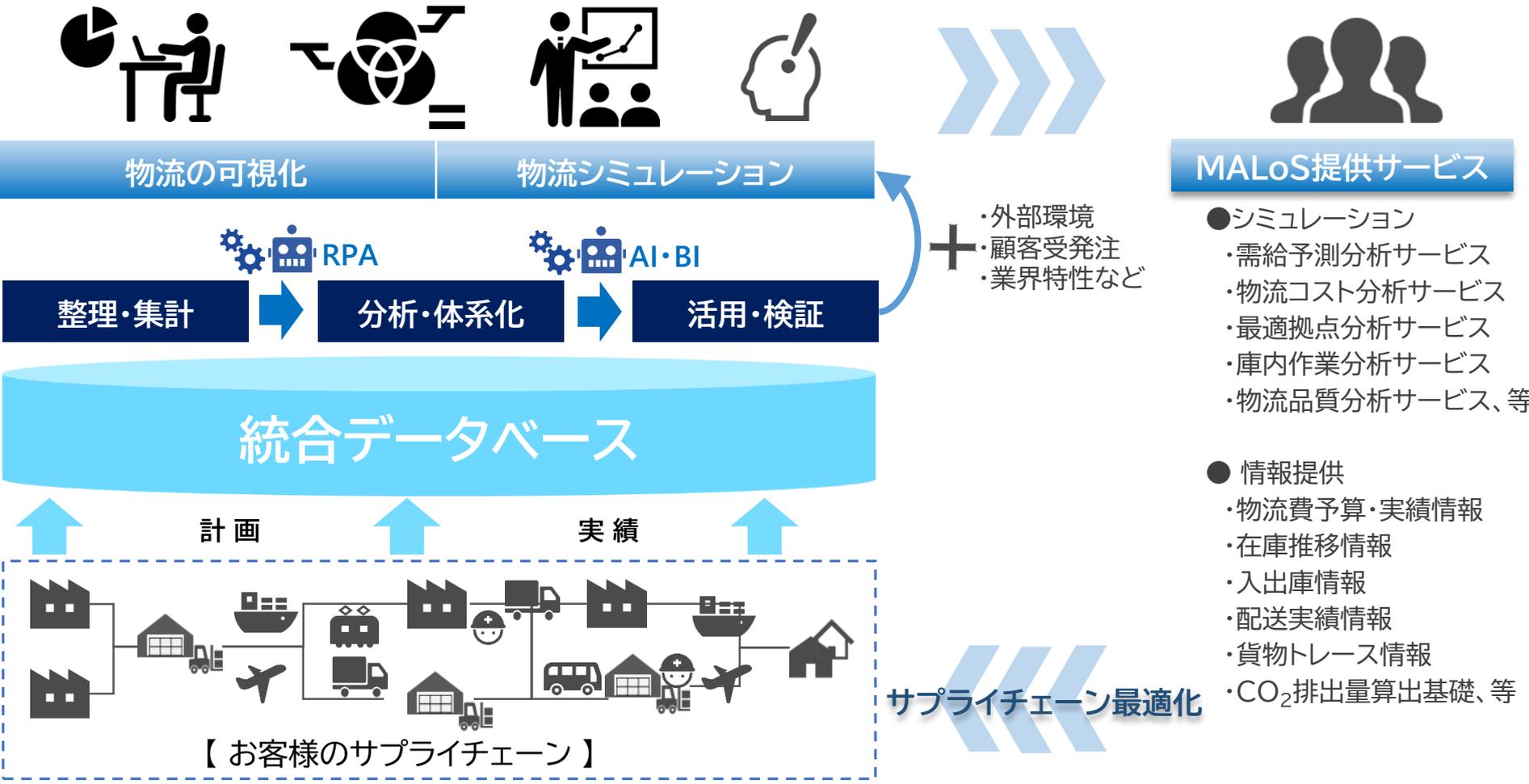
- 持続可能なサプライチェーン構築に向け、顧客や物流パートナーと共同化を図る。さらに、デジタルで個々のプレイヤーをつなぐ物流プラットフォームを構築



*MLP: Maruzen Logistics Partnerシステム。当社で利用している物流基幹システム。

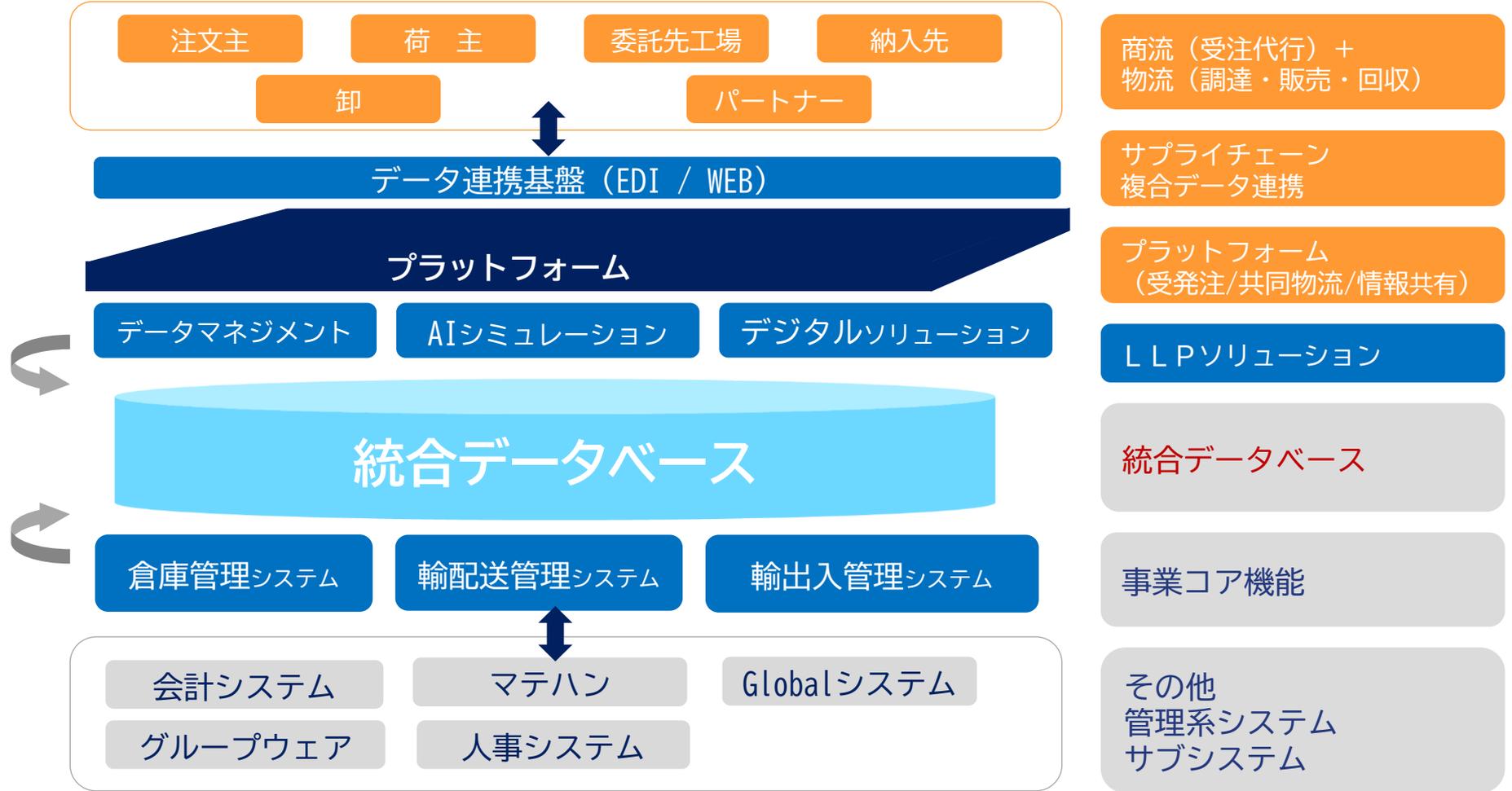
(4)-2 攻めのDX ... ②MALoSサービスの提供

- MALoSサービスでは、従来3PLサービスで蓄積したノウハウを更に進化させ、『物流の可視化』と『物流シミュレーション』をデジタル技術で強化し、お客様のサプライチェーン最適化に貢献



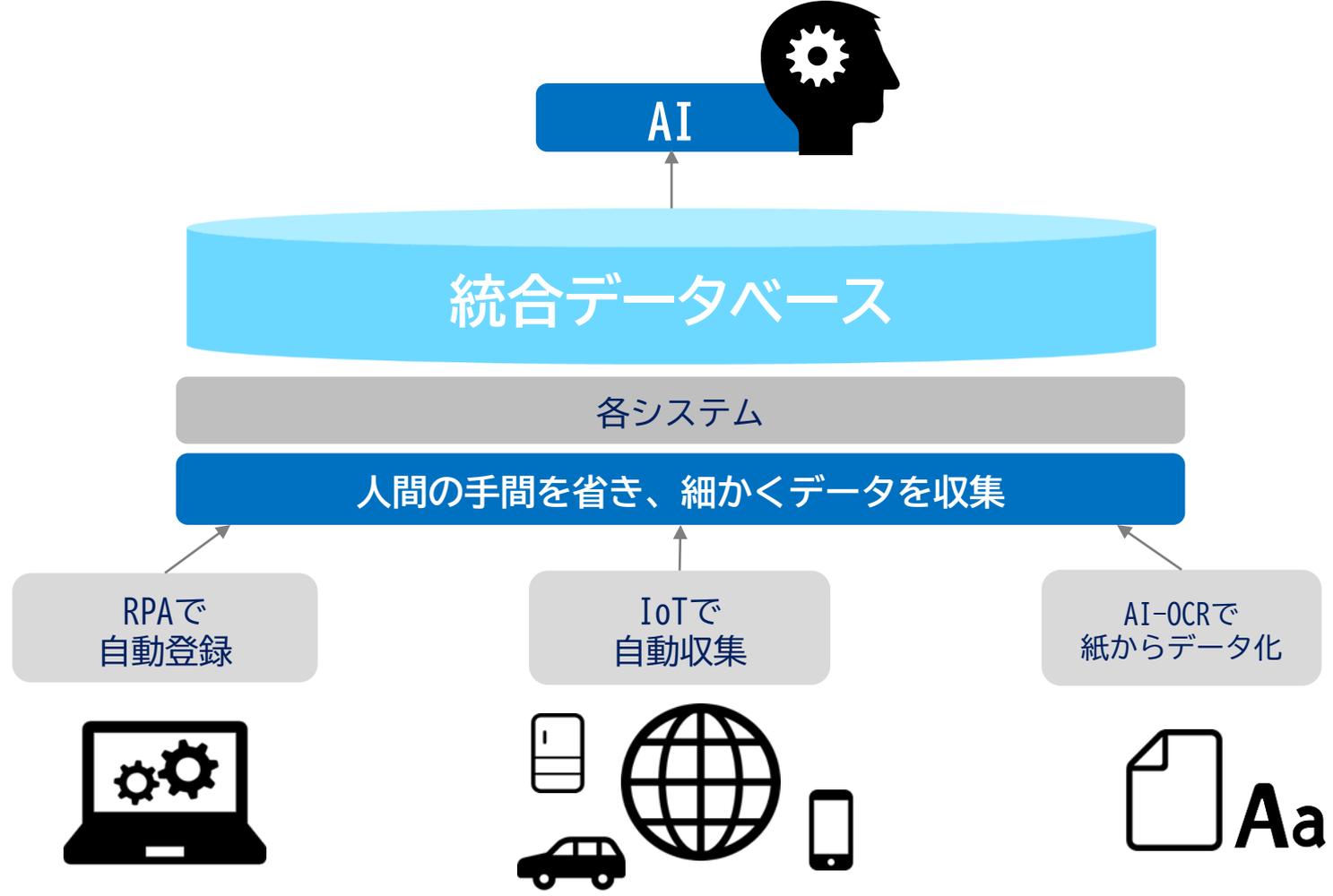
(5)-1 基盤強化のDX… ①新基幹システム統合DB構築

- 基幹システムの再構築を実施し、業界毎の物流特性を吸収できるシステムの柔軟性を確保
統合データベースに詳細データを格納し、データビジネスに活用



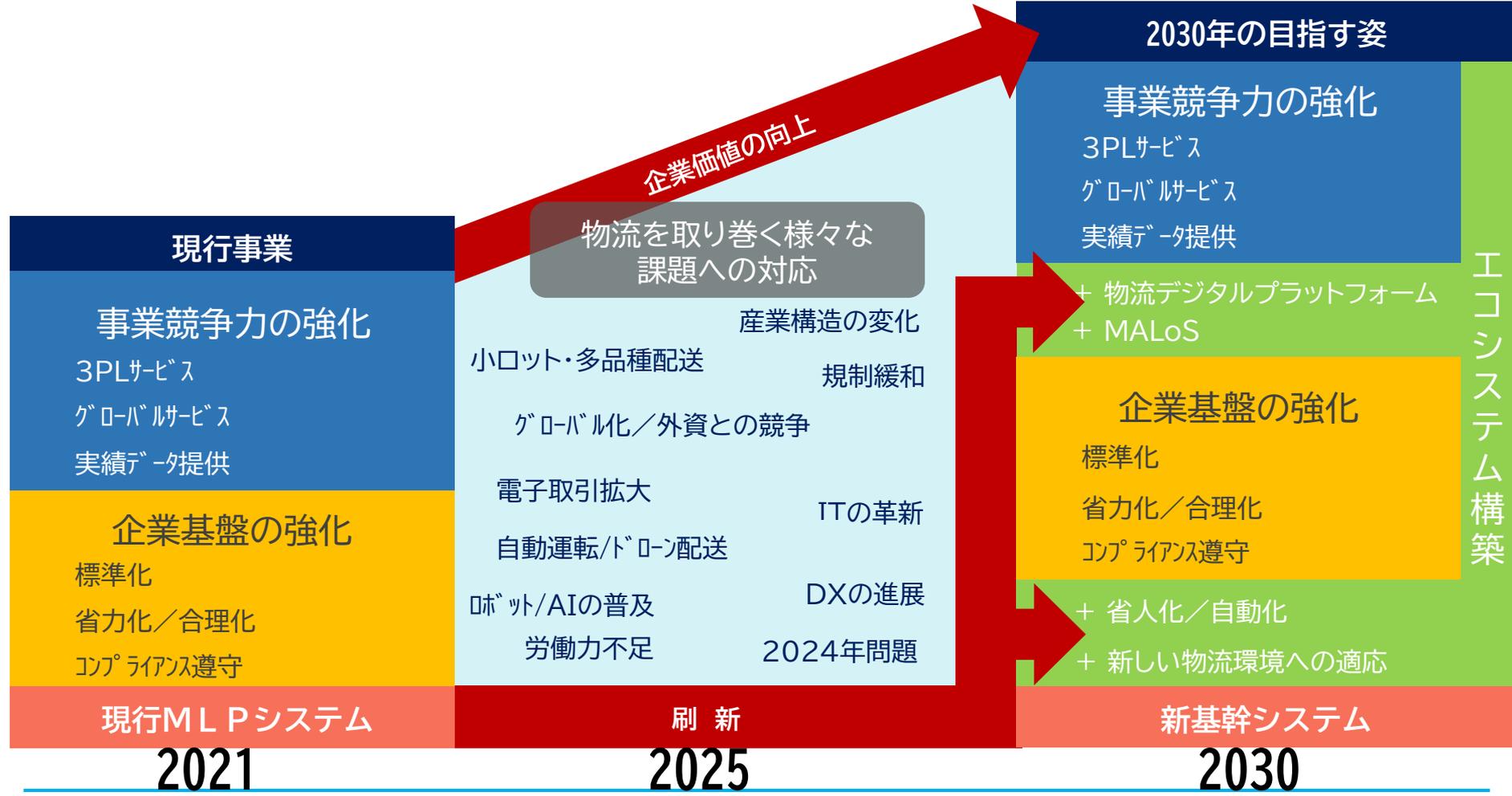
(5)-2 基盤強化のDX … ②業務のデジタル化

- 手作業ではなく、デジタル技術を活用して詳細データを登録
- 収集した詳細データを統合データベースに蓄積し、AIやM A L o Sサービスに活用



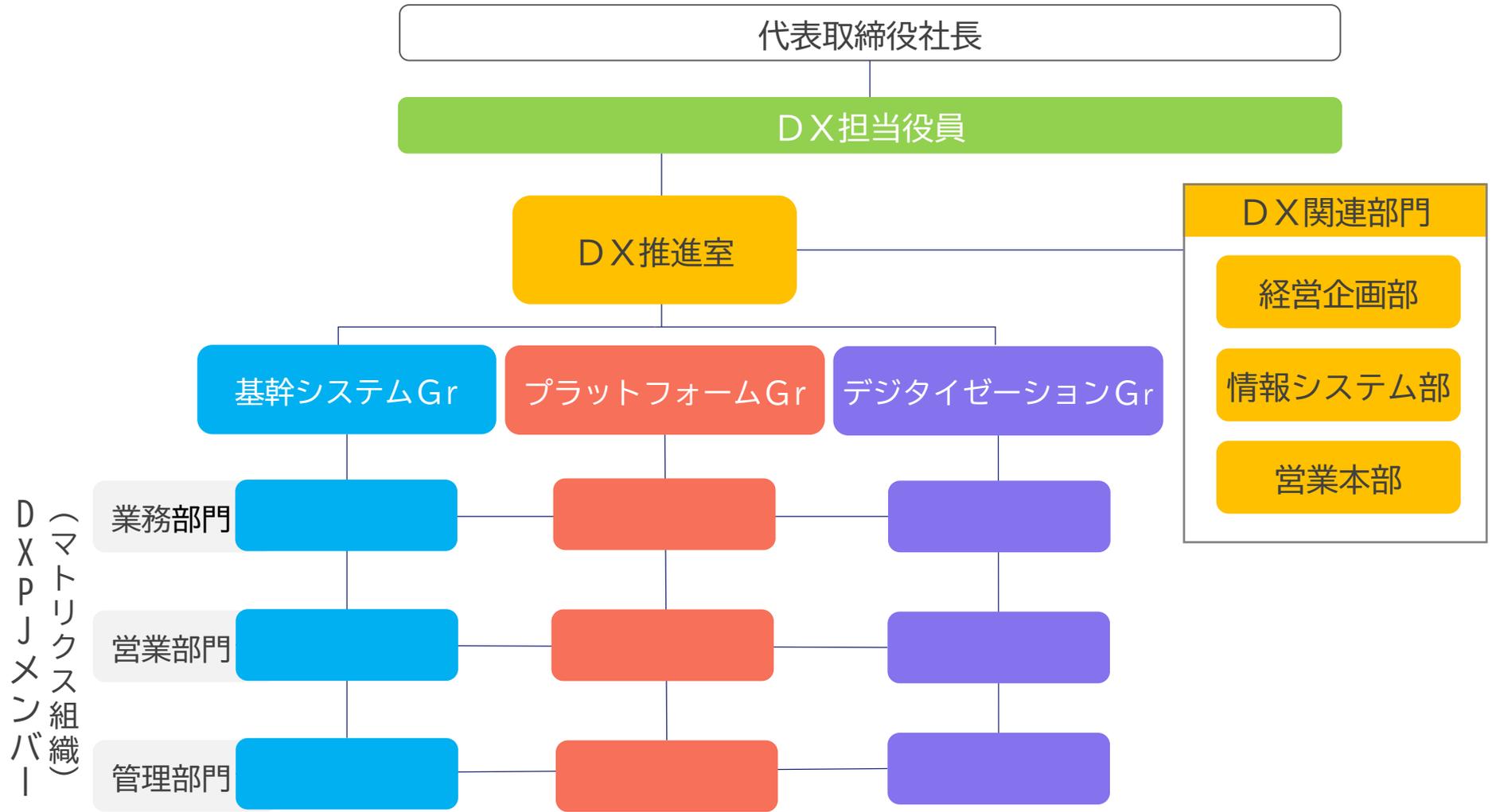
(6) 2030年の目指す姿

- 丸全昭和運輸が2030年に目指す姿を描き事業計画を策定
- 本事業計画を実現するためのシステム基盤強化をはじめとするDX投資を計画的に実施
- 顧客・物流パートナーと連携強化を図り、異業種との連携を行うエコシステムを志向



II. 丸全昭和運輸のDX推進

(1) 推進体制とガバナンス



(2) DX推進ロードマップ

年	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
月	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
新基幹システム構築	新基幹システム構築準備		新基幹システム構築 要件定義・設計・開発・テスト				新基幹システム稼働開始 ※各拠点への展開を開始	
	現基幹システム (MLPシステム) 稼働				現基幹システム 並行稼働 ※順次、新基幹システムへ移行			
プラットフォーム	MALoSサービス稼働 (必要に応じ、現基幹システムと連携)							
	A業種向け 物流デジタルプラットフォーム稼働 (必要に応じ、現基幹システムと連携)							
	B業種向け 物流デジタルプラットフォーム稼働 (必要に応じ、現基幹システムと連携) ※以降、継続しプラットフォーム構築を継続							
ゼータイノベーション	デジタル化・自動化・省人化ソリューション設備・機器の導入 ・RPAの活用 ・AI-OCRの活用 ・マテハン機器の活用 などを、継続して実施							
	電子帳簿保存法対応							

(3) DX人材育成

2022年3月デジタルリテラシー協議会賛同



- **DX構築**人材の育成: デジタルを作る人材
 - ・ データ解析を行う専門家
 - ・ AIでの分析を行う専門家
- **DX推進**人材の育成: DXを推進する人材
 - ・ 各部支店毎に、DXを推進していく社員を教育
 - ・ DX推進の部門リーダーとして活動を牽引
- **ITリテラシー**の向上教育: デジタルを使う人材
 - ・ ITリテラシーの全社員再教育(リスキリング)
 - ・ 2022年開校の“MARUZEN DX Academy”で社員研修に組み込み

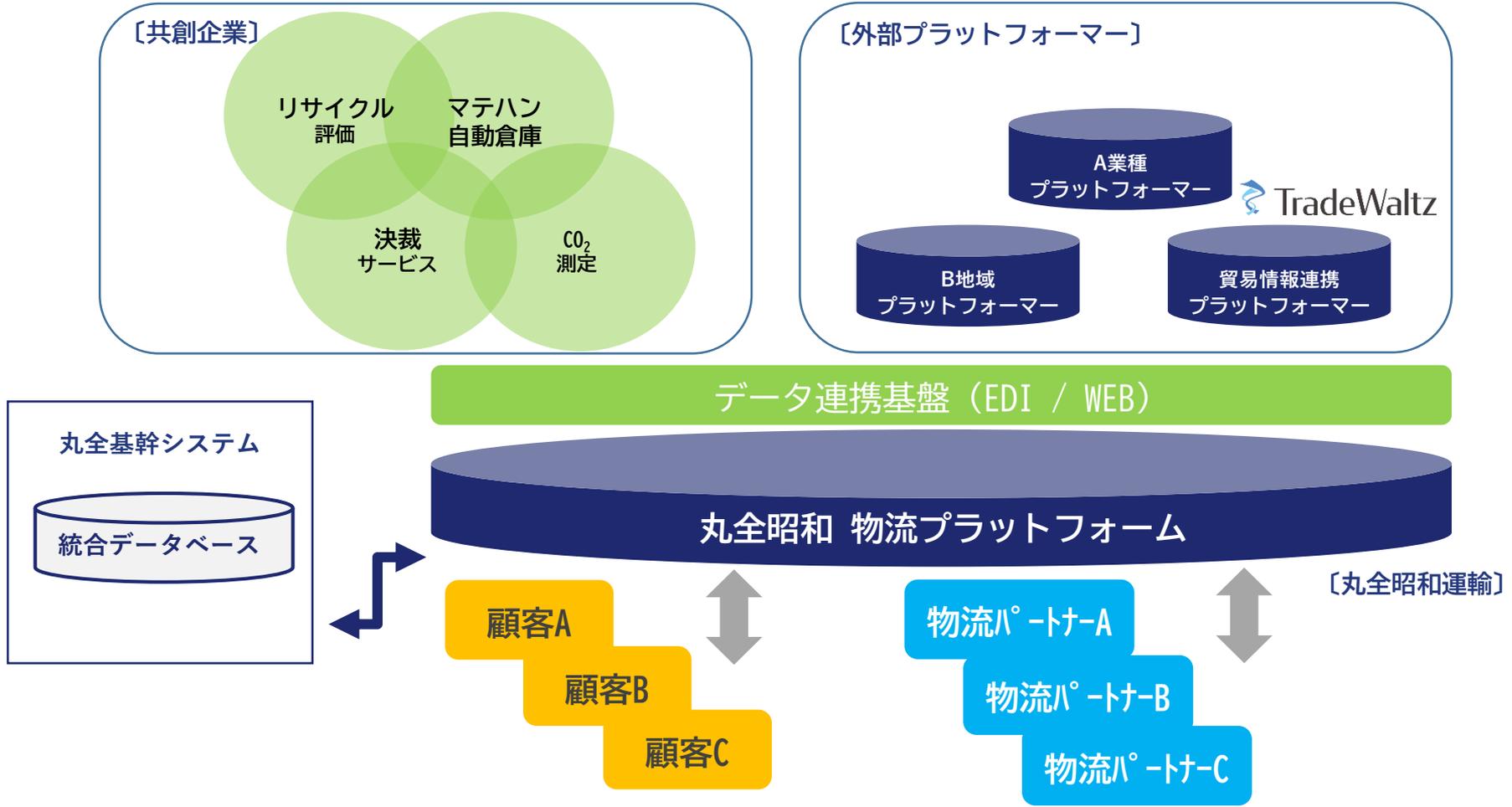


研修施設『創生館』2022年3月30日竣工

*デジタルリテラシー協議会：ビジネスパーソンデジタルリテラシーの整備と社会標準実装を目指し、官民連携の会議体として設立。 <https://www.dilite.jp/>

(4) エコシステムの導入・強化に向けて

- 当社得意分野での物流プラットフォームを構築し、顧客・物流パートナーと連携強化
- さらにプラットフォーム協業や、異業種との連携を行うエコシステムを志向



(5) DX関連投資

- 2022年3月28日発表の「第8次中期経営計画」より

第8次中期経営計画
(2022年度～2024年度)

〈投資計画〉

総額 450億円
(キャッシュベース)

DX関連投資金額 (キャッシュベース)

総額 100億円

- 新基幹システム構築
- 各種ソリューション
- マテハン機器／DX対応倉庫

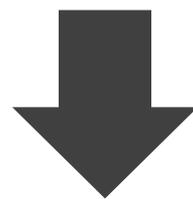
- その他設備投資 (物流拠点・車両等) 250億円
- M&A 100億円

(6) DX推進指標 (KPI)

項目	推進指標(KPI)	2022年度の目標
物流プラットフォーム	プラットフォームの構築	特定業界向け機能の構築及び トライアルの実施 2件
MALoS (コンサルティング)	MALoSサービス提供件数	提供件数 5件
新基幹システム (各サブシステムの刷新)	システム統合数	顧客専用システムを標準化し 1/3に統合 (50システム →20システム)
デジタイゼーション	業務のデジタル化・自動化・省人化の 実施件数	30件

MLDX

Maruzen Logistics Digital Transformation



デジタルで、物流に変革を。